朝東っ子だより

令和７年６月号　令和７年６月３日発行
川口市立朝日東小学校

【学校教育目標】よく学ぶ子 心の豊かな子 じょうぶな子　児童数 1年生48名 2年生68名 3年生58名 4年生56名 5年生55名 6年生59名 計344名

体験すること

～ 学校で学び 家庭でしつけ 地域ではぐくむ 朝日東小の子 ～

校長　春川　嘉孝

先日は好天に恵まれ「第５５回朝日東小運動会」が実施できました。家庭、地域の皆さまのご協力、ご支援とともに、学校、家庭、地域の三者がつながった本校ならではの運動会だったと思います。子供たちは運動会の競技、演技に自分の成長を披露しようと練習に励み、その成果を発揮できたと思います。運動会の練習と並行して行われていた「新体力テスト」に向けての取組では、体育委員会の児童が、休み時間に各学年の希望者を募り、各種目のポイントを伝えたり、目標数値を伝えたりして、練習を行っていました。子供同士の関わりの中で、育つ力は自己肯定感、有用感につながります。「朝東っ子」は、多くの関わりの中で成長しています。

先日、当時中学３年生の二人の生徒が「カンボジアでの生活を体験し、現地の子供たちと交流した様子を報告する」という会に参加しました。カンボジアといえば「アンコールワット」「タ・プローム」など観光で有名な場所がたくさんあります。人口はおよそ１７００万人、国土は日本の半分くらいの東南アジアの国です。多くの人（子供たちも）は地方で暮らしています。その生活はとても裕福とは言えません。そういった子供たちと交流をし、感じたことを報告する会です。ガス、水道もなく、雨水をためて生活する様子も伝えられました。日本とは違う環境の中でも、現地の子供たちは、朝東っ子と同じように夢を持っています。そして、その夢を叶えるために「学校で勉強している」と話します。「わざわざ、その場に行かなくても今ではインターネットやＳＮＳで様子はわかるのに、なぜカンボジアに行ったの？」参加した生徒が帰国して友達に言われた言葉だそうです。「自分の目で見たことで、多くの人に伝えたい気持ちが強くなった」と答えたそうです。

自分の目や耳、鼻で感じること、真実を知ること、体験することは今の子供たちに大事なことなのだと、つくづく感じました。「裕福≠豊かな暮らし。」どの地域でも子供たちには目を輝かせていてほしいです。本校でも、学ぶことの楽しさ、よさ、自分を成長させる学びの充実を今後も続けていきたいと思います。

知り合いの方から大正時代の頃の通知表を見せていただきました。通知表の表紙に記されている文章です。

【家庭教育と学校教育の関係】
家庭のしつけと学校の教育は、車の輪、鳥の羽のように二つそろって互いに助け合い、同じ働きをするようにしなければ、子供をよき人となすことは出来ませぬ。

今から１００年以上前の考え方です。大きく時代は変わっても、変わらない考えだと思います。学校、家庭、地域がそれぞれに、子供たちにとって「安心できる場であること」「自分の可能性を存分に引き出せる場であること」。昭和１００年といわれる今年。「不易と流行」。改めて、学校の役割を自覚し、成長する子供たちの姿を家庭・地域に広めていきます。